

# 「高瀬川地域博物館構想」 始動プロジェクト

崇仁高瀬川保勝会

▶担当 中村伸之 ▶電話 090-4274-4346 ▶メール kanosato2013@gmail.com

## 事業目的・背景

400有余年の歴史を持つ高瀬川の環境保全と文化活動を通じて、京都市立芸術大学が移転する崇仁地域のまちづくりを行う。

崇仁地域は江戸時代より差別と闘い、皮革産業などの地域経済を発展させてきた。JR京都駅に隣接する有利な立地条件にありながら、人口減少・高齢化が進行したが、京都市立芸術大学の移転で地域再生の可能性が生まれた。

地域の自然・歴史を調べて、未来の人々が交流し創造するためのアイデンティティとする地域博物館(フィールドミュージアム)を構想する。

## 事業概要

「高瀬川地域博物館構想」を手作りで始動させる。地域の歴史を調べ、生きもの調査で高瀬川の自然をまとめる。

京都市立芸術大学学生の展示や人々の交流の場として、高瀬川にテラスを設置する。

解説パネルを制作し、高瀬川周辺の10か所程度に設置し、その場の歴史や自然環境を伝える。

これらのコンテンツをまとめたマップを発行し、まとめとしてシンポジウムを開催して、高瀬川地域博物館とまちづくりの方向性を打ち出す。

## 活動期間

高瀬川の保全活動を通じて、京都市立芸術大学が移転する崇仁地区のまちづくりを行います。

- (1) 芸術が生まれ心豊かに暮らせる創造のまちづくり
- (2) 地域の記憶を掘り起こし発信する歴史のまちづくり

- (3) 生物多様性保全や雨水循環などを進める環境のまちづくり
- (4) 地域の生業の持続的な発展を支援するにぎわいのまちづくり

月1回の川そうじ、テラスの設置、水の生きもの調査、子どもたちの環境学習、アート活動支援、文化財の保護、将来像を語るワークショップなどを行っています。

## 成果

児童館の皆さんと一緒に、水の生きもの調査やスケッチをして、多くの昆虫や魚類が生息していることが分かった。

柳原銀行記念資料館や七條大橋をキレイにする会の協力を得て、高瀬川の流路の変遷、昔の橋の痕跡、七條大橋の歴史、反差別運動や同和教育の歴史を調べた。これらの情報をマップにまとめ、解説パネルにして現地に設置した。

高瀬川にテラスを設置し、京都市立芸術大学学生が創作・発表し、人々が集まり交流する場とした。

## 今後の予定

高瀬川の歴史と自然を巡るフィールドワークツアーを開催する。

博物館構想をさらに一歩進める解説パネルの設置や京都市立芸術大学学生の作品の屋外展示を行う。

高瀬川を中心に生きものすむ水と緑の空間を計画し、部分的に試行する。

「芸大移転と地域博物館のまちづくりを考えるシンポジウム」を開催して、以上の取り組みを共有し、まちづくりデザインの提案集を作成する。



高瀬川の崇仁テラスで、子どもたちと水の生きもの調査をして、トンボのヤゴ数種やヨシノボリやヌマエビなどたくさんの生きものを確認し、スケッチを描いた。川にごみを捨てる人が減れば、子どもたちが気持ちよく川遊びできるようになるだろう。



(解説パネルの例)

高瀬川の草むらで暮らすハグロトンボ。メスは水草に産卵し、ヤゴは水中で1年過ごし、翌年、成虫になる。彼らには水生植物や樹木の木陰などの環境が必要である。都市開発が進む中で、トンボや魚がすみやすい環境のまちづくりを忘れないようにしたい。



(解説パネルの例)

1920(大正9)年に崇仁小学校の第11代校長に就任した伊東茂光(いとうしげみつ)から始まる教育は、「同和教育の源流」と呼ばれ、部落差別が歴史的につくられたものであることを明らかにし、住民を励ました。